



# 「ぼくの わたしの すきな 本」

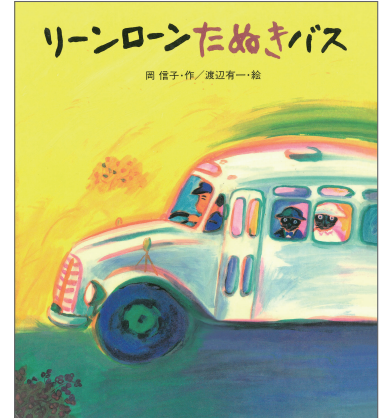


## こんな本だよ

まず、のはらであそんでいたためきが山みちを走っているバスの中からボタンをおす音を聞きつけて、お母さんにおねだりして、バスにのせてもらいました。ボタンをおす、「リンローンリンローン」という音にゆったりしていたので、かおがためきのかおにもどってしまいました。うんてんしゅがしゅうてんのところについたとき、「まあ、すみかの中を走らせてもらっているんだからまあいっか。」といいました。

## この本のこころがすき!

バスのうんてん手さんが、さいごに「石ころのお金でも、すみかを走らせてもらっているからまあ、いっか。」といったところがすきです。わけは、うんてん手さんが自ぜんに「ありがとう。」をしないとイケないのに、バスを走らせてもらって、そのかんしゃをためきにあらわしているバスのうんてん手さんのやさしさがあらわれているからです。



(出版社:岩崎書店)

## 本の名前

リンローンためきバス

## 本を書いた人

岡 信子(作) / 渡辺 有(絵)

バスの停車チャイムにあこがれるためきさん。バスの旅に出發するよ。ふんわりとした色使いのさし絵をとおして、運転手さんの優しさや、ためきさんのワクワク感がえがかれているね。

